

令和5年産 大麦『ファイバースノウ』栽培こよみ

令和4年8月
アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会

大麦栽培のコツ：**① 早めの排水対策で単収300kgを確保** **② 計画的な圃地化とブロックローテーションで連作を回避**

栽培管理のポイント	9月	10月	11~12月	積雪期間	3月	4月	5月	6月
		★播種前の排水対策は確実に	★耕起は丁寧に★適正播種量で苗立ち確保	★排水溝は随時手直しする			★赤かび病防除の徹底	

発芽・苗立ち確保のポイント 単収向上には初期生育の確保が重要

- 排水対策** → ① 稲刈り後、すぐに排水溝を設置 ② 畦幅は3m以内 ③ 畦高は20cm以上
- 土壌改良** → ① 石灰質資材の施用 ② 有機物の施用
- 適正播種** → ① 10月上旬中心の播種 ② 適正な播種量 ③ 播種深度は3cm程度
- 播種後の管理** → ① 雑草防除対策 ② 排水溝の連結点検

排水対策

① 水口はしっかり止める ② 額縁排水溝は早めに設置する ③ 排水口は深く掘り下げる

④ サブソイル等による心土破碎で透水性を改善 ⑤ 播種直後に基幹排水溝を設置 ⑥ 排水溝は確実に連結する

排水口は額縁排水溝より深く掘り下げる

ポイント② 土づくり・播種

● 土づくり (pH矯正)

- 土壌改良資材を施用し、土壌のpH6.0~6.5を確保する
- 深耕により作土深を確保し、根域を拡大させる
- 基準となる基肥量を確実に施用する

★ 施肥の目安 (10a当たり)

施用時期	耕起前	播種時基肥 (下記のいずれか)	播種 1ヶ月後	消雪直後 (2月下旬頃)	止葉展開期 (4月上旬頃)
資材名	粒状貝化石 ※ 沖積土壌 150~200kg	○Jコート 大麦48号 45kg	-	-	-
施用量	発酵けいふん(粒) 沖積土壌 150kg 洪積土壌 100kg	○ハイマックス 燐加安444 40kg	硫安 20kg	硫安 20kg以内 窒素過多の場合減肥	硫安 10kg以内 生育量等に依り施用

※ 土壌診断の結果 pHが低い場合は多めに施用する

● 播種時期に応じ、適正量を播種する

- ① 播種適期は10月上旬
- ② 生育量を確保するため10月中旬までには播種を完了する
- ③ 栽培面積が大きい場合は9月末より乾いた圃場から計画的に播種する

● 播種時期と播種量の目安

播種期	目標苗立数 (本/m)	播種量の目安 (kg/10a)	
		ドリル播	表面散播
9月26~30日	140	6.0	6.5
10月上旬 (10月中旬)	150 (200)	6.5 (8.5)	7.0 (9.0)

ポイント③ 雑草防除

● 播種後、速やかに除草剤を散布し、肥料成分が雑草に奪われるのを防ぐ。(ただし、表面散播では使用できないので注意する)

【一般的な防除】

除草剤名	適用雑草	使用時期	使用量及び散布液量 (10a当たり)	使用方法
ボクサー	一年生雑草	播種後~麦2葉期 (雑草発生前~雑草発生初期)	薬量 400~500mℓ 散布量 70~100ℓ	土壌表面散布

【雑草が少ない圃場】

除草剤名	適用雑草	使用時期	使用量及び散布液量 (10a当たり)	使用方法
トレファノサイド乳剤	一年生雑草 (ツクサ、カヤツリグサ、キク、アブラナ科を除く)	播種後出芽前 (雑草発生前)	薬量 200~300mℓ 散布量 100ℓ	土壌表面散布
トレファノサイド粒剤2.5		播種後出芽前	散布量 4~5kg	

【カラスノエンドウが多い圃場】

除草剤名	適用雑草	使用時期	使用量及び散布液量 (10a当たり)	使用方法
リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後~麦3葉期 (雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで)	薬量 60~80mℓ 散布量 100ℓ	土壌表面散布
リベレーターG		播種後~麦2葉期 (雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで)	散布量 4~5kg	

除草剤散布による効果 散布区 条間の雑草が少ない

ポイント④ 赤かび病防除

● 適期に2回確実に実施!

回数	施用時期	薬剤名	使用量及び散布液量 (10a当たり)
1回目	穂揃期 (開花始め)	トップジンM粉剤DL	4kg
		トップジンM水和剤	1,000倍 / 150ℓ
		トップジンMゾル (無人航空機の場合)	1,500倍 / 60~150ℓ
2回目	1回目散布の7日後	ワークアップ粉剤DL	3kg
		ワークアップフロアブル (無人航空機の場合)	2,000倍 / 150ℓ 10~16倍 / 0.8ℓ

▲ 赤かび病被害粒

ポイント⑥ 緑肥作物による地力増進

● 栽培体系と効果

● 主な緑肥作物

作物	クロタラリア
生育特性	草長 1.5~2m 生草量 4t/10a 程度
播種期	6月上旬~7月上旬
播種量	5~6kg / 10a
すき込み時期	普通種: 播種後50~70日 フレールモアで翻転後にすき込み 広葉種: 播種後60~80日
特徴	窒素濃度は高く、土壌中での分解が速いため、肥料としての効果は高い

※ 麦あとの緑肥栽培はカメムシ等対策により7月上旬までの播種としています。

※安全安心な大麦を生産、販売するために『生産記録簿兼 GAP チェックシート』を記帳・提出しましょう。